

胆振みんなでICT

～1人1台端末等を活用して、主体的に問題発見・解決に挑む資質・能力を伸ばす～



本リーフレットは、胆振管内の小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた1人1台端末等の効果的な活用が図られることを目指し、作成しました。

管内の全ての学校、全ての教員の授業改革の取組や、家庭での活用の取組がいっそう図られますよう、本リーフレットの各ケースを参考にしながら、1人1台端末等を日常的に活用し、子どもたちが、主体的に問題発見・解決に挑む資質・能力を伸ばしていきましょう。

1 授業でICT

個別最適な学びや協働的な学びの充実にに向けた活用

2 つながるICT

子どもや家庭とつながり、学校からの支援を広げる活用

3 校務でICT

子どもと向き合う時間を確保する活用

北海道教育庁胆振教育局
胆振管内市町教育委員会連携協議会
令和6年3月

1 授業でICT

個別最適な学びや協働的な学びの充実に向けた活用

ケース 1 一人一人の学びの状況を把握し、個別指導を充実させます（クラウド）。

チャット上に子どもが考えや作成物をアップロードすることで、他の子どもや教師がリアルタイムに子どもの考えを把握することができます。子どもの考えや作成物に不足があれば補う支援を行い、全体に周知したいことがあれば声かけして注目させましょう。

POINT !

考えたものに自信がなくても、また、途中段階であっても、積極的なアップロードを促します。

ケース 2 学級全体で意見を共有し、学び合いを深化させます（フォーム）。

導入段階での事前アンケートや振り返り、小テストにフォームを活用することで、教師は子ども一人一人の学びや考えを集約することができます。集計結果を学級全体に提示・共有し、グループ学習や授業改善につなげましょう。

POINT !

結果を共有することで、他者の考えや意見からも学べるようにすることが大切です。

ケース 3 共同編集機能を活用して、子ども主体の学びを進めます（共有ファイル）。

共同編集機能を活用することで、他者の学びを参照することができます。取組につまずきのある子どもも他者参照することでヒントになり、主体的に学習を進めることができます。共有ファイルを活用して、子どもの心理的安全性を高めましょう。

POINT !

白紙共有・他者参照の場を設けることで、子どもが安心して学習できることが重要です。

ケース 4 コミュニケーション支援アプリで他者とやりとりできるようにします（アプリ）。

話し言葉によるコミュニケーションが難しい子どもでもコミュニケーション支援アプリを使うことで、主体的に役割活動などに取り組むことができます。友だちの前で力を発揮する場面をつくり、達成感につなげていきましょう。

POINT !

視覚的に分かりやすく、操作のしやすいアプリを設定することが重要です。



ケース5 オンライン学習を意図的・計画的に位置付けて、個別最適な学びにつなげます（オンライン授業）。

オンラインで学習することで、離れた地域や国の人と交流したり、個別の指導を受けたりすることができ、子ども一人一人が主体的に学ぶことができます。子ども一人一人に必要な学習を的確に見取り、個別最適な学びにつなげましょう。

POINT !

子ども一人一人が目標をもち、自ら学んでいく複線型の授業を構想することが重要です。

ケース6 生成AIを活用して、子どもの言語能力を育成します（Web）。

アウトプットする日本語または英語が自身の思考を適切に表現できているかについて、生成AIを通して確認することができます。題材に必要な表現について効果的に全体共有することで、更なる知識の定着につなげましょう。

POINT !

ガイドラインを踏まえ、事前に、生成AI活用の留意点について指導することが大切です。

▶ もっとくわしく（P8、P9）

2 つながるICT

子どもや家庭とつながり、学校からの支援を広げる活用

ケース7 出欠席や健康状態、心や体調の変化を把握し、早期支援につなげます（フォーム）。

「端末＋フォーム」等で、教師は子ども一人一人の体調や心の変化を、迅速に把握することができるようになりました。子ども一人一人の心や体の状態を的確に見取り、早期の支援につなげましょう。

POINT !

教職員間で記録を共有すると、学級担任以外の教職員でも職員室などから子どもの心身の状態等を確認することができます。

ケース8 学校へ登校することが困難な子どもとオンラインでつながります（校内研修）。

様々な理由で登校することが困難な子どもとオンラインでつながることで、友だちとの関わりが増え、学習への意欲を高めることにつながります。子どもが安心して学習に参加できるようにしましょう。

POINT !

オンライン授業を行うことで、心身の健康状況等を把握し、適切な支援内容の提供につなげることができます。

▶ もっとくわしく（P10、P11）

3 校務でICT

働き方改革を促進し、子どもと向き合う時間を確保する活用

ケース9 提案資料や予定等をデジタル化し、会議の効率化を図ります（クラウド）。

「授業DXは校務DXから」。データをクラウド化することで、場所や時間を問わず、連絡・共有することができます。また、資料の印刷にかかる時間やコストも削減することができます。まずは教師が日常的にクラウドを活用し、慣れることで便利さを知り、授業に活用しましょう。

POINT !

クラウドを活用した共同編集による校務の効率化と情報の即時共有は極めて便利です。

ケース10 授業用コンテンツを格納したり、校内研修に活用したりします（クラウド）。

クラウドを活用して、教材や学習指導案などを共有することで、他の教師がどのような授業実践を行っているのか把握するとともに、自身の授業で活用することができます。校内研修での協議においても効果的に活用し、授業改善に生かしましょう。

POINT !

紙で管理していたものを、クラウド上にデータで管理することで、気軽に情報共有できます。

ケース11 家庭学習等で1人1台端末を活用し、主体的に学ぶ姿勢を育みます（持ち帰り）。

家庭での学習も1人1台端末で完結することができるようになります。家庭学習を実施する上で、家庭でのインターネット環境を把握する必要があります。全ての子どもがどのような環境下でも課題に取り組むことができるよう、家庭や教育委員会と連携しましょう。

POINT !

インターネット環境にとらわれない課題の提示方法も準備することが大切です。

ケース12 教師が実際に端末を使いながら、授業で使えるアプリ等を体験します（校内研修）。

子どもが様々なアプリを活用することで、今までできなかったことができるようになったり、自分に合った方法で学習を進めたりすることができます。教師が、校内研修を活用して、アプリ操作の体験をすることで、子どもがより効果的にアプリを活用できるようにしましょう。

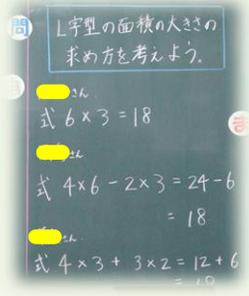
POINT !

子どもが使うアプリを体験したり、校務に活用したりすることで授業改善につながります。



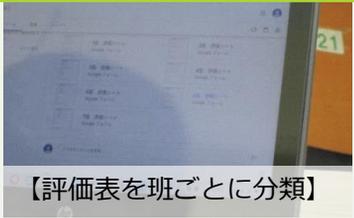
1 授業でICT

ケース1 一人一人の学びの状況を把握し、個別指導を充実させます（クラウド）。

活用場面	・算数科において、教師が児童の考えを把握する場面
使用するアプリ等	・チャットアプリ  Chat
活用例	<p>○ L字型の図形の面積を求める学習で、児童が面積の求め方について考察する際の活用</p> <ul style="list-style-type: none">・児童がChatに自分の考えをアップロードする。・児童は、コメントに説明を入力したり、スクリーンショットする前のデータに説明を書き込んだりする。・教師は、児童の考えを把握し、困っている児童や考えが不十分である児童に対し、他の児童の考えを参照するよう促したり、アドバイスしたりする。・児童は、他の児童の考えを参照し、自分の考えを補ったり、修正したりする。・児童は、自分の考えと他の児童の考えを比較し、共通点を見付ける。 <div data-bbox="348 1031 835 1388"><p>大きな長方形から赤線で囲った長方形を引く考え方</p></div> <div data-bbox="872 1031 1359 1388"><p>3つの長方形に分ける考え方</p></div> <p>【Chatにアップロードしている様子】</p> <p>◎タイムリーに一人一人の状況を把握することで、机間指導で指名する児童を選ぶよりも効率よく、児童の考えを全体で共有することができる。</p> <div data-bbox="1110 1475 1359 1771"></div> <p>【考えの共有】</p>
留意点	教師が状況把握できるだけでなく、児童同士の協働的な学びにつながるため、児童生徒が自信のない考えや途中までの考えであってもChatにアップロードするよう促すことが大切です。

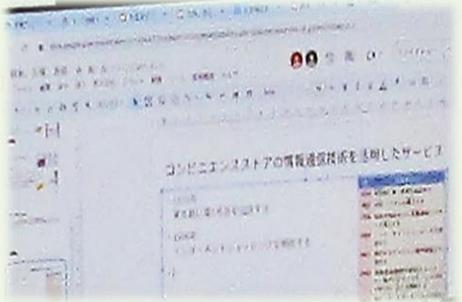
1 授業でICT

ケース2 学級全体で意見を共有し、学び合いを深化させます（フォーム）。

活用場面	・ アンケート結果からのグループ学習と評価の場面																																	
使用するアプリ等	・ アンケート集約できるアプリ  フォーム																																	
活用例	<p>1 保健体育科の授業での活用</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>導入</p> <p>↓</p> <p>展開</p> <p>↓</p> <p>まとめ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0f0e0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業について考える授業の導入の際、生徒が「就職先として重要視すること」についてフォームを活用したアンケートを実施する。 ・ アンケート結果を基にグループ活動をする。 ・ 他者の考えを聞き、自分の考えを深めることで、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 </div> </div> <div style="margin-top: 20px;">  <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>就職先として重要視すること【3つまで】</p> <p>36件の回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>回数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会社の将来性がある</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>福利厚生（寮費補助や交通...）</td> <td>14</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>社会貢献度が高い</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>休日・休日が多い</td> <td>16</td> <td>44.4%</td> </tr> <tr> <td>会社の雰囲気が良い</td> <td>10</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>大企業とわかる</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>希望の勤務地で働ける【異...】</td> <td>9</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>自分のやりたいことができる</td> <td>11</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>研修制度が充実している</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>勤務時間の長さ</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: right;"> <p>提示・共有例</p> </div> </div> </div> <p>2 数学科の授業での活用</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>導入</p> <p>↓</p> <p>展開</p> <p>↓</p> <p>まとめ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0f0e0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りに隠れている指数関数と対数関数をグループで調べて、発表する。 ・ 発表するグループ以外は、評価の観点に沿って、フォームで評価する。 ・ フォームの意見を集約し、生徒にフィードバックする。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【評価を入力】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【評価表を班ごとに分類】</p> </div> </div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学習課題等に対する即時的・効果的な意見集約ができる。 ◎ 協働的な学習を通して学び合いの深化を図ることができる。 </div>	項目	回数	割合	会社の将来性がある	2	5.6%	福利厚生（寮費補助や交通...）	14	38.9%	社会貢献度が高い	1	2.8%	休日・休日が多い	16	44.4%	会社の雰囲気が良い	10	27.8%	大企業とわかる	1	2.8%	希望の勤務地で働ける【異...】	9	25%	自分のやりたいことができる	11	30.6%	研修制度が充実している	1	2.8%	勤務時間の長さ	1	2.8%
項目	回数	割合																																
会社の将来性がある	2	5.6%																																
福利厚生（寮費補助や交通...）	14	38.9%																																
社会貢献度が高い	1	2.8%																																
休日・休日が多い	16	44.4%																																
会社の雰囲気が良い	10	27.8%																																
大企業とわかる	1	2.8%																																
希望の勤務地で働ける【異...】	9	25%																																
自分のやりたいことができる	11	30.6%																																
研修制度が充実している	1	2.8%																																
勤務時間の長さ	1	2.8%																																
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の点数や評価が特定されないように結果を提示・共有するように留意することが大切です。 ・ アンケートや評価・振り返りの集計等は生徒と共有し、グループ学習やリフレクションにつなげることが大切です。 																																	

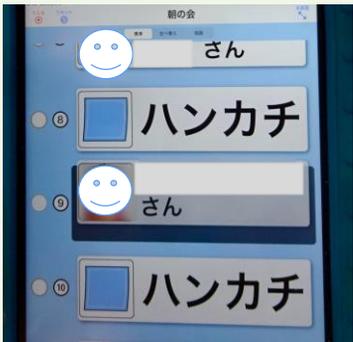
1 授業でICT

ケース3 共同編集機能を活用して、子ども主体の学びを進めます（共有ファイル）。

活用場面	・ 社会科の授業で、情報の収集、整理・分析する場面
使用するアプリ等	・ 共同編集用コンテンツ作成ツール  スプレッドシート  ドキュメント  スライド
活用例	<p>1 単元の見通しや児童個々の本時の学習の進め方、本時の振り返りの蓄積に活用</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童は、情報の活用方法についての3つの視点から、自分の学習課題をスプレッドシートのプルダウンで選択する。・ 児童は、スプレッドシートに自分の考えやグループの考え、学習の進め方、進捗状況を入力する。・ 児童は、スプレッドシートに振り返りを入力したり、自己到達度を選択したりして、単元の中での学びを蓄積していく。 <p>2 学習のまとめに活用</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童は、個人やグループで教科書やインターネットを使って調べ、収集した情報のメモをスライドやドキュメントに記す。・ 児童は、必要に応じて情報を共有する。・ 児童は、集めた情報から必要なものを選択し、思考ツールなどを活用して整理し、個人やグループで役割分担をしてスライドにまとめる。 <p>◎他者参照や共同編集できることで、児童は、学習に対する安心感をもつことができ、自分の立てた課題に対して主体的に学ぶことができる。</p> <p>◎学びの蓄積・自己評価によって「学び方を学ぶ」ことができる。</p>  <p>【課題の選択や振り返り】</p>  <p>【スライドでのまとめ】</p>
留意点	・ 共有ソフトを使用する際には、端末の使用方法やメディアリテラシーについて指導する必要があります。 ・ スプレッドシートは保護して、児童の誤操作を未然に防ぐことが大切です。

1 授業でICT

ケース4 コミュニケーション支援アプリで他者とやりとりできるようにします（アプリ）。

<p>活用場面</p>	<p>・朝の会で、子どもが進行する場面</p>
<p>使用するアプリ等</p>	<p>・コミュニケーション支援アプリ </p>
<p>活用例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 司会進行の支援に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒は、DropTapのシンボルを上から順番に項目をタッチして進行していく。 ・ 児童生徒が画面をタッチすることが難しい場合は、スイッチインターフェースに接続して外部スイッチを利用する。 ・ 教師は、健康観察の場面で活用できるよう、児童生徒ごとに項目をつくる。 ・ 児童生徒は、健康観察の場面で順番に「○○さん元気ですか」、「ハンカチはありますか」とやり取りしながら進める。 <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 視覚的に分かりやすく、毎日同じ流れで進行することができ、児童生徒は、見通しをもつことができる。 ◎ 一人一人の得意な動きに応じて操作することができる。 ◎ 言葉での進行が難しい児童生徒でも音声で主体的に進行の役割をすることができる。 ◎ 少ない教師の支援で、友だちの前で役割を果たすことができ、達成感につながる。 ◎ 朝の会以外でもシンボルと音声を使って他者とやりとりすることができる。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>【朝の会のボード】</p>  <p>【健康観察の場面】</p>  <p>【スイッチインターフェース、スイッチ】</p> </div>
<p>留意点</p>	<p>授業開始や終了のあいさつ、給食の発表、給食時に音楽をかける役割などにも、コミュニケーション支援アプリを使うことで、児童生徒が主体的に取り組むことができるようにすることが大切です。</p>

1 授業でICT

ケース5 オンライン学習を通して、個別最適な学びにつなげます（オンライン授業）。

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材を活用した学習をする場面
使用するアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> 外部との接続を可能にするオンラインサービス等
活用例	<ol style="list-style-type: none"> 外部機関が運営するサイトを外国語科の授業で活用 <ul style="list-style-type: none"> 生徒は、「日常英会話」「検定対策」「ディスカッション」など、テーマ別に分かれたコンテンツの中から自分で学習する内容を選択する。 生徒は、ネイティブの教員からオンライン英会話の個別指導を受ける。 個別指導終了後、生徒は、フォームに振り返りを入力する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒は、自分で学習内容を選択することで、主体的に学習に取り組むことができる。 ◎生徒は、自己調整しながら学習を進めることができる。 ◎家庭学習においても活用することができる。 海外の学生とのオンライン交流に活用 <ul style="list-style-type: none"> 「お互いの文化を紹介する」「お互いの国の名所を紹介する」などのテーマで海外の学生と交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒は、自分の説明が相手に伝わったという実感をもつことができ、その後の外国語の学習意欲につなげることができる。 探究活動で活用 <ul style="list-style-type: none"> 課題の設定後、情報の収集の場面において、高等教育機関や関係機関とオンラインで接続する。 課題別グループ協議を行い、高等教育機関や関係機関との質疑応答を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◎専門家から異なる視点での意見を聞くことで、児童生徒は、多面的・多角的なもの見方・考え方ができる。
留意点	<p>外部機関が運営するサイトを利用する場合は、保護者及び関係機関に確認の上、使用することが大切です。</p>



【オンライン英会話】



1 授業でICT

ケース6 生成AIを活用して、子どもの言語能力を育成します（Web）。

活用場面	・授業において、児童が正しくアウトプットできているか（言語能力が育成されているか）確認する場面
使用するアプリ等	・AIイラスト作成ウェブページ等
活用例	<p>1 国語科での活用</p> <ul style="list-style-type: none">・児童は、自由に書いた物語の「表紙」を作成するため、AIイラスト作成ウェブページを活用する。・児童は、ふさわしい「表紙」を作成するために適切な文章等を考え、AIに読ませる。 <p></p> <p>【イラスト作成】</p> <ul style="list-style-type: none">◎児童自身がイメージする「表紙」を作成するために必要な文章を考えることで、言語能力の育成を図ることができる。◎「挿絵」を作成することで、「表紙」を表現する文章等とは違う文章が必要となり、更なる言語能力の育成につなげることができる。 <p>2 外国語科での活用</p> <ul style="list-style-type: none">・児童は、ペアになり、A又はBの役割分担をする。・Aの役割の児童は、イラスト等の内容について英語で表現する。その際、クラス内の全てのAの役割の児童は、同じイラスト等を扱うこととする。・Bの役割の児童は、Aの英語の表現を聞き取りながら、Aが扱っているイラスト等をイメージをする。・Bの役割の児童は、聞き取った英語の表現に基づき、修文しながら、AIイラスト作成ウェブページでAIに英語を読ませる。・AIが作成したイラストとAが扱っているイラスト等を見比べ、A・Bともに、正しく表現できていたか確認する。 <ul style="list-style-type: none">◎Aがイラスト等を英語で表現する際に、正しく表現するための単語または表現方法等について、全体に周知することで、更に知識の定着を図ることができる。
留意点	令和5年7月4日付け文部科学省初等中等教育局「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」などを参考に、事前に、生成AI活用の留意点について指導することが大切です。

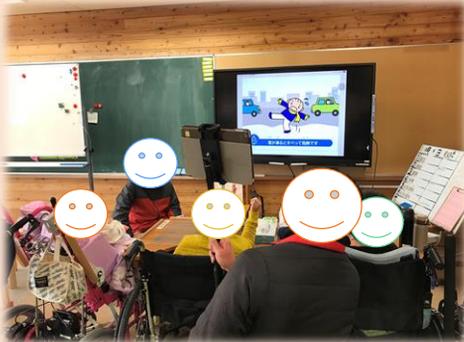
2 つながる ICT

ケース 7 出欠席や健康状態、心や体調の変化を把握し、早期支援につなげます（フォーム）。

<p>活用場面</p>	<p>・朝の健康観察、学校生活アンケート</p>																																																																						
<p>使用するアプリ等</p>	<p>・出欠席や健康状態を確認できるアプリ </p>																																																																						
<p>活用例</p>	<p>1 1人1台端末等を使って、朝の健康状態の記録に活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で入力できるときには、自分で、体調不良等で入力できないときには、教職員や保護者が入力する。 <p>◎教職員間で、情報共有ができるため、児童が不在の理由をPCや1人1台端末からすぐに確認できる。</p> <p>◎記録が残せるため、出席簿の作成や確認に役立てることができる。</p> <p>◎家庭で保護者が入力することにより、出欠席の連絡をICTで行うことができる。</p> <table border="1" data-bbox="485 880 1249 1156"> <thead> <tr> <th></th> <th>ID</th> <th>氏名</th> <th>学年/クラス</th> <th>入力日</th> <th>種別</th> <th>日付</th> <th>理由</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>済</td> <td>児童A</td> <td></td> <td>1年1組</td> <td>2/27 16</td> <td>欠席 (病気、怪我、通院)</td> <td>02/02</td> <td>風邪症状</td> <td>喉の痛みがある為...</td> </tr> <tr> <td>済</td> <td>児童B</td> <td></td> <td>1年1組</td> <td>1/31 046</td> <td>欠席 (病気、怪我、通院)</td> <td>01/31~02/02</td> <td>風邪症状</td> <td>コロナ陽性</td> </tr> <tr> <td>済</td> <td>児童C</td> <td></td> <td>1年1組</td> <td>2/27 22</td> <td>欠席 (病気、怪我、通院)</td> <td>02/02</td> <td>怪我</td> <td>足が痛いらしく様...</td> </tr> <tr> <td>済</td> <td>児童D</td> <td></td> <td>1年2組</td> <td>2/26 53</td> <td>早退 (早退する時間を記入)</td> <td>02/02</td> <td>その他</td> <td>風邪症状があるの...</td> </tr> <tr> <td>済</td> <td>児童E</td> <td></td> <td>1年2組</td> <td>2/27 33</td> <td>欠席 (病気、怪我、通院)</td> <td>02/02</td> <td>発熱</td> <td>今朝また発熱して...</td> </tr> </tbody> </table> <p>【欠席確認画面】</p> <p>2 1人1台端末でフォームを使って定期的に行う、学校生活アンケートの実施に活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人が該当項目にチェックを入れる。 <p>◎毎回、集計する必要がなくなる。</p> <p>◎教職員間で情報共有ができるため、どの学級の実態も教職員全体で把握することができる。</p> <p>◎子ども一人一人の心の変化を素早く知ることができる。</p> <div data-bbox="385 1549 802 1806"> <p>13. 学校は、楽しいですか？</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> あまりでもない</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p>14. 誰に対しても、自分から進んで、気持ちのよい挨拶ができていますか？</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> あまりでもない</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> </div> <p>【アンケート画面】</p> <div data-bbox="939 1549 1320 1806"> <p>13. 学校は、楽しいですか？ (0点満)</p> <p>進捗 <input type="button" value="グラフ表示"/></p> <table border="1"> <tr><td>はい</td><td>12</td></tr> <tr><td>どちらでもない</td><td>16</td></tr> <tr><td>あまりでもない</td><td>7</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>2</td></tr> </table>  <p>14. 誰に対しても、自分から進んで、気持ちのよい挨拶ができていますか？ (0点満)</p> <p>進捗 <input type="button" value="グラフ表示"/></p> <table border="1"> <tr><td>はい</td><td>16</td></tr> <tr><td>どちらでもない</td><td>11</td></tr> <tr><td>あまりでもない</td><td>1</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>2</td></tr> </table>  </div> <p>【結果画面】</p>		ID	氏名	学年/クラス	入力日	種別	日付	理由	備考	済	児童A		1年1組	2/27 16	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	風邪症状	喉の痛みがある為...	済	児童B		1年1組	1/31 046	欠席 (病気、怪我、通院)	01/31~02/02	風邪症状	コロナ陽性	済	児童C		1年1組	2/27 22	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	怪我	足が痛いらしく様...	済	児童D		1年2組	2/26 53	早退 (早退する時間を記入)	02/02	その他	風邪症状があるの...	済	児童E		1年2組	2/27 33	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	発熱	今朝また発熱して...	はい	12	どちらでもない	16	あまりでもない	7	いいえ	2	はい	16	どちらでもない	11	あまりでもない	1	いいえ	2
	ID	氏名	学年/クラス	入力日	種別	日付	理由	備考																																																															
済	児童A		1年1組	2/27 16	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	風邪症状	喉の痛みがある為...																																																															
済	児童B		1年1組	1/31 046	欠席 (病気、怪我、通院)	01/31~02/02	風邪症状	コロナ陽性																																																															
済	児童C		1年1組	2/27 22	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	怪我	足が痛いらしく様...																																																															
済	児童D		1年2組	2/26 53	早退 (早退する時間を記入)	02/02	その他	風邪症状があるの...																																																															
済	児童E		1年2組	2/27 33	欠席 (病気、怪我、通院)	02/02	発熱	今朝また発熱して...																																																															
はい	12																																																																						
どちらでもない	16																																																																						
あまりでもない	7																																																																						
いいえ	2																																																																						
はい	16																																																																						
どちらでもない	11																																																																						
あまりでもない	1																																																																						
いいえ	2																																																																						
<p>留意点</p>	<p>健康観察や欠席の状況をデジタル化すると、子どもの健康状況を複数の職員で確認でき、不適応等に対する初期対応も迅速になるなど、生徒指導面においても大きな効果が期待できるため、こまめにチェックすることが重要です。</p>																																																																						

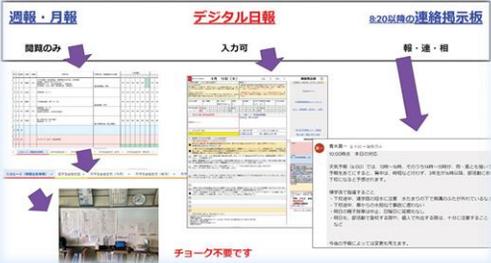
2 つながるICT

ケース8 学校へ登校することが困難な子どもとオンラインでつなげます(オンライン授業)。

活用場面	・ 訪問教育学級児童生徒や不登校児童生徒への日常支援
使用するアプリ等	・ ウェブ会議機能のある学習支援ソフト 
活用例	<p>○ 登校することが困難な児童生徒が在宅場所から友だちと一緒に活動を行うために活用</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日常の学習時にウェブ会議機能のある学習支援ソフトで学校と在宅場所をつなぐ。・ 朝の会で、ドロップニュースというアプリを使用して、児童生徒と今日のニュースを話題にやり取りを行う。・ 教師は、児童生徒の心身の健康状況等を把握し、適切な支援内容を検討する。・ 児童生徒は、困っていることや悩みを教師やSC、SSWに相談する。・ 日常の学習指導以外にも、体育大会や見学旅行などの行事にオンラインで参加する。 <div data-bbox="372 1021 836 1363">A classroom scene where several children in wheelchairs are seated at desks. They are participating in an online meeting, with their faces obscured by smiley face icons. A teacher is standing at the front of the room.</div> <p data-bbox="658 1373 1061 1404">【オンラインでの朝の会の様子】</p> <div data-bbox="882 1021 1346 1363">A classroom scene where several children in wheelchairs are seated at desks. They are participating in an online meeting, with their faces obscured by smiley face icons. A teacher is standing at the front of the room.</div> <div data-bbox="372 1427 836 1680">A group of children in wheelchairs are participating in a sports festival. They are standing in a line, and their faces are obscured by smiley face icons.</div> <p data-bbox="694 1690 1039 1721">【体育大会に参加した様子】</p> <p data-bbox="386 1757 1315 1839">◎ 児童生徒は、一緒に参加できた喜びと期待感、達成感を得ることができる。</p>
留意点	体育大会などの学校行事を共有する場合は、大きめのスクリーンを用意するなど、多くの児童生徒がオンラインでの活動状況を共有することができるよう工夫することが大切です。

3 校務でICT

ケース9 提案資料や予定等をデジタル化し、会議の効率化を図ります（クラウド）。

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の日々の校務
使用するアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド共有アプリ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  ドキュメント </div> <div style="text-align: center;">  Chat </div> <div style="text-align: center;">  スプレッドシート </div> <div style="text-align: center;">  サイト </div> </div>
活用例	<ol style="list-style-type: none"> 職員会議をはじめとする各種会議の資料作成に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド編集が可能な文書作成アプリ（ドキュメント等）で職員会議の資料を作成し、クラウドに保存する。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎クラウド化することで共同編集やリンク貼付、会議中にも加筆・修正することができる。 ◎全員がいつでもクラウド上で閲覧可能であるため、紙の印刷や保管、回覧の必要がない。 </div> 打合せ、連絡に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・Chatを活用し、手軽に連絡や情報交流を行う。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎校内での職員間の連絡はもとより、各種研修や他校の教職員との情報交換等にも活用することができる。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>【予定表のクラウド化、チャットの活用例】</p> </div> 予定表のクラウド化に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートで予定表を作成する。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎場所や時間を問わずそれぞれが必要なときに予定や連絡事項を確認・修正することができる。 </div> 校内ポータルサイトの作成に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校ごとの教職員サイトを作成する。 ・クラウド上の各種予定、資料、事務書類等へのリンクやドライブ階層を示し、手軽にアクセスできるようにする。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>【校内ポータルサイトの作成例】</p> </div>
留意点	<p>クラウドデータの整理（ドライブ階層に分け、可視化する）、バックアップやセキュリティの管理が重要です。</p>

3 校務でICT

ケース10 授業用コンテンツを格納したり、校内研修に活用します（クラウド）。

活用場面	・教材の共有、校内研修など
使用するアプリ等	・クラウド共有アプリ  ドキュメント  Classroom  フォーム  スライド
活用例	<p>1 教材や学習指導案等の共有に活用</p> <ul style="list-style-type: none">・学年別、教科別にClassroomを作成する。・クラウドを活用して学習指導案や授業で使用するデータ（スライド、ワークシート等）、授業アンケートの結果等を格納し、教科別や用途別に整理して共有する。・クラウド上にある学習指導案を活用して授業を構想する。・クラウド上にあるデータを授業に活用する。 <p>◎データを共有することで、教材を準備する時間が短縮できる。</p> <p>◎学年部会、教科部会等において、データで資料を共有できる。</p> <p>◎授業でフォームを活用したアンケートを行い、集計結果を教科内で共有することで、授業改善につなげることができる。</p> <p>2 校内研修における資料の共有及び協議に活用</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修用のClassroomを作成する。・共有ドライブ内にPDF資料（ICT実践例や学習指導案など）を保存する。・スライドを活用し、設定されたテーマを基に書き込んだり、付箋をカテゴリー分けしたりしながら協議を行う。・協議後のスライドをダウンロードし、共有ドライブに格納する。 <p>◎研修会に不参加であっても資料を共有することができる。</p> <p>◎全グループの協議内容をデータとして後日すぐに確認することができる。</p> 
留意点	<ul style="list-style-type: none">・ファイル名、フォルダ名を統一し、職員間での共通理解を図ることが大切です。・個人情報の保護に関する法律を遵守し、取り扱いには十分に留意することが大切です。

3 校務でICT

ケース11 家庭学習等で1人1台端末を活用し、主体的に学ぶ姿勢を育みます（持ち帰り）。

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習等における1人1台端末の活用の促進
使用するアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン文書処理ツール  ドキュメント ・カメラアプリ ・クラウド共有アプリ  Classroom  Chat
活用例	<p>1 家庭学習において文章を作成する際に活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、事前に、オンライン文書処理ツールで日記の枠をつくり、データを1人1台端末に保存しておく。 ・児童生徒は、家庭で日記の枠にその日にあったことを入力する。 ・児童生徒は、カメラアプリを活用し、文章のみの日記から絵日記のような写真日記にする。 ・児童生徒は、成果物をChatで送信したり、学校に持参したりする。 <p style="text-align: right;"> 【日記の入力】</p> <p style="text-align: center;">◎経験したことや体験したことを視覚的に思い出しながら成果物を作成することができる。</p> <p>2 家庭学習でのクラウド共有アプリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、Classroomや共有フォルダに課題を提示する。 ・児童生徒は、家庭でClassroomや共有フォルダにある課題に取り組む。 <p style="text-align: right;"> 【共有フォルダ内の課題】</p> <p style="text-align: center;">◎成果物を蓄積することで学習の成果をすぐにフィードバックすることができる。 ◎学習状況の変容などを把握することができる。 ◎アカウントがあればどの端末からも課題に接続することができる。 ◎クラウド共有アプリだけではなく、AIドリルを家庭学習で取り組むこともできる。</p>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントをオフラインで使用する場合はChromeの拡張機能をインストールし、設定する必要があります。 ・共有フォルダを使用する際はフォルダの接続設定をする必要があります。

3 校務でICT

ケース12 校内研修で教師が実際に端末を使いながら、授業で使えるアプリ等を体験します（校内研修）。

<p>活用場面</p>	<p>・効果的なICT活用に向けた校内研修</p>
<p>使用するアプリ等</p>	<p>・コミュニケーション支援アプリ </p>
<p>活用例</p>	<p>○ 校内研修での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する発達障がいや知的発達への遅れ、肢体不自由などで、言葉を発することが難しい児童生徒の内に秘めた言葉を引き出すことができるDropTapを校内または学年での研修において実際に体験する。 ・アプリを起動し、コミュニケーションボードからシンボルを選択し、センテンスモード（文章読み上げ）を押して、再生する。 ・センテンスモードで複数のシンボルを並べて再生する。 ・教師で協働して児童生徒の実態を踏まえて、コミュニケーションボードを自作する。 <div data-bbox="943 758 1372 1038" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">【コミュニケーションボード】</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◎ iPadであればAirDropでデータでのやり取りが可能であるため、機器の操作が苦手な教師が得意な教師のデータを送ってもらい、参考にすることができる。</p> <p>◎ 教師が作成したコミュニケーションボードを児童生徒のiPadに送ることができる。</p> <p>◎ 教師同士で使い方の共有がなされることで、校内全体で児童生徒の可能性を引き出せる環境を整えることができる。</p> </div> <div style="background-color: #fff9e6; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【他のアプリ等の体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドやJamboardで共同編集機能の体験 ・フォームでのアンケート作成、集計の体験 ・Chatに考えを入力したり、資料や写真をアップロードする体験 ・ウェブ会議システムを活用した遠隔での研修の体験など </div>
<p>留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と向き合っていくためには、教師が活用するところから始めることが大切です。 ・DropTapは、iPad以外の端末にはアプリの開発がされていないことに留意する必要があります。

「胆振みんなでICT」チェックリスト

私たちに求められるのは、単にICTを操作でき、授業で活用させる能力だけではありません。必要なのは、個別最適化と協働的な学びの一体的な充実を図ることができるよう、教師が伴走しながら、児童生徒の学習を支えることです。

今後も、小学校・中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校で連携・協働しながら、胆振管内全体でICTの効果的な活用による授業改善を進めてまいりましょう。

	チェック項目	✓
1	教育効果を上げるために、1人1台端末やインターネットなどを意図的・計画的に活用している。	
2	インターネットを活用して、教材や校務分掌に必要な資料を集めたり、保護者に必要な情報を発信したりしている。	
3	ワープロソフトやプレゼンテーションソフト等を活用して、授業に必要な資料、校務分掌に必要な資料を作成している。	
4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・ワークシートなどをPCを活用して記録・整理し、評価に活用している。	
5	PC等で資料を共有して、興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりしている。	
6	PC等を活用して児童生徒の意見などを効果的に提示して、互いの意見・考え方を共有したり、比較検討したりしている。	
7	学習ソフトなどを活用して、繰り返し学習する課題や一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題に取り組ませている。	
8	グループで考えをまとめたり、資料を作成したりする際に、1人1台端末やクラウドなどを効果的に活用している。	
9	学習活動に必要な端末等の基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）が身に付くよう指導している。	
10	校内で研修形態を工夫して、ICT活用のアイデアを出し合って共有できるようにしている。	

執筆者一覧

氏名	所属名・職名	氏名	所属名・職名
八木 俊 樹	苫小牧市立泉野小学校主幹教諭	秦 将 人	胆振教育局義務教育指導監
宇南山 大 輔	登別市立富岸小学校教諭	丸 山 敏 儀	胆振教育局教育支援課長
田 中 俊 輔	苫小牧市立和光中学校教諭	角 達之助	胆振教育局教育支援課主査（研修）
尾 野 成 篤	登別市立緑陽中学校教諭	鈴 木 理 抄	胆振教育局義務教育指導班主査
井 上 暁 史	北海道室蘭工業高等学校教諭	鈴 木 肇	胆振教育局高等学校教育指導班主査
小山内 義 輝	北海道伊達開来高等学校教諭	中 脇 尚 子	胆振教育局義務教育指導班主任指導主事
石 井 京 子	北海道穂別高等学校教諭	渡 辺 浩 輔	胆振教育局義務教育指導班主任指導主事
寺 沢 英 幸	北海道登別明日中等教育学校教諭	寶 福 舎	胆振教育局義務教育指導班指導主事
高 辻 賢 司	北海道室蘭養護学校教諭	油 川 智 史	胆振教育局義務教育指導班指導主事
山 西 真 理	北海道室蘭養護学校教諭	関 川 恭 平	胆振教育局義務教育指導班指導主事
三 好 みどり	北海道苫小牧支援学校教諭	佐 藤 健	胆振教育局高等学校教育指導班指導主事
根 井 亮 宗	北海道苫小牧支援学校教諭	工 藤 弓 佳	胆振教育局高等学校教育指導班指導主事

視察校一覧

埼玉県久喜市教育委員会、札幌市教育委員会、長野県教育委員会及び各視察校の御協力をいただき、下記の学校等で視察させていただいた内容を基に本リーフレットを作成しました。

御協力いただきました関係機関及び関係職員の皆様に感謝申し上げます。

学 校 名	
久喜市立鷲宮中学校	久喜市立桜田小学校
札幌日本大学高等学校・中学校	立命館慶祥中学校・高等学校
北海道野幌高等学校	北海道千歳高等学校
市立札幌新川高等学校	市立札幌開成中等教育学校
札幌市立中央小学校	市立札幌旭丘高等学校
長野県特別支援教育ICT・ATリソースセンター	長野県稲荷山養護学校

ICTの効果的な活用に係るサイトを紹介します。



【文部科学省】

○ **StuDX Style**

1人1台端末の活用事例やGIGAスクール構想に関する有識者のインタビュー、先進自治体における取組等を掲載

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>



○ **リーディングDXスクール事業ポータルサイト**

GIGAスクール環境下における好事例の創出・普及を目的とした「リーディングDXスクール事業」のポータルサイト。
全国の指定校の実践のほか、公開授業や公開研究会の情報を掲載

<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>



【北海道教育委員会】

○ **ICT活用ポータルサイト**

ICTを活用した実践事例や研修資料、道内の好事例等を掲載

<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html>



「胆振みんなでICT」

北海道教育庁胆振教育局
胆振管内市町教育委員会連携協議会
令和6年3月